

学校長様  
英語科担当者様  
ELEC 同友会英語教育学会会員各位

ELEC 同友会英語教育学会会長 本多敏幸  
第28回研究大会実行委員長 木幡隆宏

## E L E C 同友会英語教育学会 第28回研究大会

この度、E L E C 同友会英語教育学会第28回研究大会を、下記の要領で開催する運びとなりました。今年度もオンラインにて開催し、参加者の皆様とともに視野を広げ、英語教育を見つめ直す一日にしたいと願っております。オンラインでの実施になりますので、全国津々浦々から、多くの方が参加して下さることを期待しています。

1. 期日：2022年10月30日（日） 9:00～16:40

2. 実施方法：遠隔会議システム Zoom（オンライン）

3. 参加方法および参加費：

【申込期間：10/1（土）～10/26（水）】

<会員>

- ◆ 参加申込 ⇒ 学会 HP または右の QR コード（参加申込①）より
- ◆ 会員は無料（今年度の会費が未納の方は5,000円お振込みください）
- ◆ 新規の会員の申込は学会 HP より

<一般>

- ◆ 参加申込 ⇒ 学会 HP または右の QR コード（参加申込①）より
- ◆ 一般参加費は2,000円（非会員として研究大会のみの参加）

<大学生>

(1) 「ビデオによる公開授業」（学生会場）のみの参加（無料）

- ◆ 参加申込 ⇒ 学会 HP または右の QR コード（参加申込②）より

(2) 学生会員（全プログラムに参加可能）

- ◆ 参加申込 ⇒ HP または右の QR コード（参加申込①）より
- ◆ 新規の学生会員の申込は学会 HP より

※学生会員（学部生に限る）は年会費1,000円（本学会のイベントに会員資格で参加可能）



### ■ 参加費・年会費のお振込み ■

- みずほ銀行九段支店 ● (普) 1700545
- 口座名：ELEC ドウユウカイエイゴキョウイクガツカイジム ● 振込手数料はご負担ください

※参加申込登録および参加費・年会費のお振込みは 10月26日（水） が期限となります。

### 4. プログラム（詳細は変更になる可能性があります）：

8:30	受付開始	12:50～13:40	研究部会発表Ⅱ
9:00～9:10	開会行事	13:50～14:40	研究部会発表Ⅲ
9:10～10:20	講演	14:50～16:30	ビデオによる公開授業（学生会場）
10:30～11:20	研究部会発表Ⅰ	14:55～16:30	ビデオによる公開授業（一般会場）
11:30～11:45	会員総会	16:30～16:40	閉会行事
11:55～12:50	昼食		

## 5. 内 容 :

### ◆講演 (9:10~10:20)

題目 : 「主体的に学習に取り組む態度」の具体的な評価方法      講師 : 松浦伸和 (広島大学)

学習指導要領が改定されて学習評価も大きく変わり、3観点になりました。そのためでしょうか、学習評価のやり方について誤解や混乱が見られます。その中でも「主体的に学習に取り組む態度」については、どのように評価したらよいか分からないという声をよく耳にします。妥当な評価をするには、何よりも、学習指導要領に照らして3観点の趣旨を正しく理解する必要があります。そこで、まず観点の趣旨や評価の対象など英語の学力評価に関して広く解説し、「主体的に学習に取り組む態度」の具体的な評価方法についてわかりやすく紹介させていただきます。

### ◆研究部会発表 I (10:30~11:20)

#### <語彙指導研究部会> 「高校生の語彙学習ストラテジー使用に関する一考察」

日本の語彙指導の最大の問題点は、生徒が覚えるべき単語は示すけれども、「どのようにして」それらの単語を覚えるのかを示さないことにある。この「どのようにして」が語彙学習ストラテジーなのである。本研究では、まず高校生がどのようにして語彙を覚えているか、その特徴を探る。そして2006年の調査の結果と比較し、英語教育が変わってきたこの15年間に生徒達のストラテジー使用も変わったかを検証する。次に、英語力、語彙サイズ上位者と下位者とでは、使用しているストラテジーが違うかどうかを明らかにする。最後に英語力、語彙サイズとストラテジー使用の間には相関があるかどうかを検証する。今現在、非常に面白いデータが取れた。

発表者 : 岡田順子 (元埼玉県立朝霞高等学校・現英語私塾講師)      宮島盛明 (新潟県立加茂高等学校)  
渡邊政寿 (上越教育大学)      菅原直弥 (東葉高等学校)

#### <リーディング研究部会> 「本文の「深い」理解を目指した読解授業」

リーディング研究部会では、学習者が英文を読む際に、字義的な理解に留まらず、解釈的な「深い」理解に到達するためには、授業者によるどのような手立てが必要であるかを研究しています。「主体的・対話的で深い学び」をもたらすことを目指した授業実践において、教科書本文の読解を、単なる和訳作業にさせないためにはどのように指導したら良いのでしょうか。実践例をご紹介します、生徒の学びを考察します。

発表者 : 平川新 (大学受験グノーブル)      飯野厚 (法政大学)      伊藤智子 (練馬区立大泉学園中学校)  
遠藤康子 (練馬区立貫井中学校)      尾張至伸 (弘前市立北辰中学校)

#### <ライティング研究部会> 「高校の「論理・表現 I」の教科書におけるライティング活動の分析」

今年度から高校の新課程が開始されたが、新科目の「論理・表現 I」の教科書におけるライティング活動の分析を通して、生徒が書けるようになるためにどのような支援を行うべきかを考えたい。教科書の活動には「モデル文」「書くためのプロセス」「目的・場面・状況」「内容の展開方法」など、様々な支援の要素が提示されている。こうした支援をどのように活用すれば、効果的なライティング指導が可能になるかを提案したい。

発表者 : 工藤洋路 (玉川大学)      石毛順子 (豊橋技術科学大学)      加藤洋昭 (聖徳大学)  
木幡隆宏 (目白大学)      齊藤澄江 (埼玉県立伊奈学園総合高等学校)  
松岡まどか (横浜雙葉高等学校)      吉住香織 (神田外語大学)      和田朋子 (工学院大学)

## ◆研究部会発表Ⅱ（12:50～13:40）

### <音声指導研究部会> 「ICT をめぐる音声指導の現場動向」

昨年度の本研究大会で講演テーマにもなった「教育のITC化」は、英語音声の指導にも大小さまざまな変化をもたらします。オンライン/オフラインソフトのサービスとして実現しつつある text-to-speech（音声読み上げ）や speech-to-text（音声認識）等の技術、そして音声データの埋め込まれたデジタル教科書をはじめとする各種教材を、現場はどのように使おうのか。逆に、ICT 技術を超えて生身の教師だからこそできる音声指導は何なのか。簡単には答えの出ないこれらの問いに、部員の実践例から迫っていきます。

**発表者：** 宇佐見京子（足立区立鹿浜菜の花中学校） 尾崎ちひろ（佐世保工業高等専門学校）  
小林 隆史（立教池袋中学校・高等学校） 田中 敦英（桐朋中学校・高等学校）  
中村剛世志（学習院女子中・高等科） 松津 英恵（東京学芸大学附属竹早中学校）

### <実践研究部会> 「中・高連携を考えた領域統合型の言語活動 – 考えを述べる言語活動 –」

一昨年度、昨年度に続いて領域（技能）統合型の言語活動について発表します。今回は、聞いたり読んだりしたことについて、考え・感想・意見などを述べる言語活動を取り上げます。まず、中学校検定教科書から考えを述べるための表現を抽出・整理したものを紹介します。これらの表現は「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「ディスカッション」「ディベート」で使用することを目的にして整理しました。次に、これらの表現を活用した高校1年生の指導実践例を紹介します。

**司会者・発表者：** 本多敏幸（千代田区立九段中等教育学校、ほか）  
**発表者：** 相澤雄介（練馬区立光が丘第三中学校） 奥田裕香（大阪狭山市立狭山中学校）  
小林順子（墨田区立吾嬬立花中学校） 柿崎伸樹（東京都立白鷗高等学校・附属中学校）

### <小学校英語教育研究部会> 「小学校英語で主体的に学習に取り組む態度とコミュニケーションへの態度をどうとらえて評価するか」

小「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力は「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価がなされますが、「コミュニケーションへの態度」とは異なるのでしょうか。学びに向かう力等の目標には「他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」と示されています。相手意識を養う上での異文化間理解や相互文化的能力（IC）の育成につながる言語活動と評価について考えます。

**発表者：** 長沼君主（東海大学） 羽田 あずさ（横須賀市立田戸小学校）  
松崎 奈穂（上尾市立原市南小学校） 幡井 理恵（昭和女子大学附属昭和小学校）

## ◆研究部会発表Ⅲ（13:50～14:40）

### <オーラルアプローチ研究部会>「思考力・判断力・表現力を育成するためのオーラルアプローチ～やり取りにつながる口頭練習～」

「英語で授業を行う」ための基本的な技術である「オーラルイントロダクション」と「パターンプラクティス」について研究しています。現在は導入から復習、そして言語活動まで、様々な先生方が参考にできる「授業パッケージ」の作成を行っています。今年度は中学1年生が、思考・判断・表現の活動にあたる「即興的なやり取り」を可能にするために、教科書本文の音読から expansion（文に修飾語句を付け加える）、conversion（肯定文から疑問文を作る）、selection（疑問文に対する応答文を作る）の3つのパターンプラクティスを、どのように行えばよいのか提案します。

**発表者：** 安部智秀（東海大学菅生高等学校中等部） 宮崎太樹（日野市立日野第一中学校）  
**実演者：** 島崎さやか（八王子市立第一中学校） 吉田直人（相模原市立清新中学校）

### <評価研究部会>「中高の定期考査における思・判・表の具現化を考える」

評価部会ではこれまで共通テストの分析を通して、新3観点の特に「思・判・表」を測るテストの在り方について検討してきた。新3観点を評価が高校でも導入された今年度は、定期考査で「知・技」、「思・判・表」、「主体的態度」評価をどう具現化していくかについて考査問題試案を共有しながら、議論が続いている。既読教材の中でも目的・場面・状況の設定次第で思考や深い理解を促す学習に結びつけられないか、現時点で考えられる着地点をいくつか示すことで、フロアの率直な印象を伺いたいと考えている。

**司会者：** 黄俐嘉（千代田区立九段中等教育学校）  
**発表者：** 中村隆（明治学院高等学校非常勤） 荒川高広（千代田区立九段中等教育学校）  
鈴木省三（東京都立足立東高等学校） 高杉達也（筑波大学附属中学校）

## ◆ビデオによる公開授業（一般会場 14:55～16:30／学生会場 14:50～16:30）

### 「中学2年生の授業」 授業者：胡子美由紀（広島市立古田中学校）

ONE WORLD English Course 2 Lesson 3 Design in Our Life を扱う。題材中の登場人物の経験から、発展途上国の人々が直面するリアルな現状と問題点を知ることを通し、自分たちの日常生活をより良くするために何ができるかを考える。授業前半は、アウトプットを促すベースづくりとなる帯活動を行い、後半で即興のやり取りを重視したディスカッションを行う。

【一般会場】解説者：本多敏幸（千代田区立九段中等教育学校）

【学生会場】解説者：工藤洋路（玉川大学）

## 6. 協賛企業

HP上に順次掲載いたします（<http://elecfriends.com/>）。

## 7. その他

- Zoom への接続方法等は、申し込み完了後、メールにてご連絡差し上げます。受信制限等の設定にご注意ください。
- 通信費用は参加者のご負担となります。
- 通信環境につきましては、参加者ご自身の責任となりますので、事前の通信環境等のご確認をよろしくお願いいたします。

8. 問い合わせ先 E-mail: [elec\\_taikai2022@elecfriends.com](mailto:elec_taikai2022@elecfriends.com) 木幡 隆宏（コワタ タカヒロ）